

「画論 32nd The Best Image」参加報告

札幌医科大学附属病院 大橋芳也

みなさまこんにちは、札幌医科大学附属病院の大橋です。

2024年12月15日（日）に東京国際フォーラムにて画論 ザ・ベストイメー
ジが開催されました。今年で32回目となる画論 ザ・ベストイメー
ジは、ハイブ
リッド開催となり、放射線医学のエキスパートの先生方々による厳格な審査を
経て、最終的な賞が選ばれました。Aquilion ONE 部門、1～160 列部門、Aquilion
Precision 部門など各部門から医師、技師それぞれ1名が協力してプレゼンを行
うユニークなスタイルとなっており、入賞された各施設からの発表では、臨床的
有用性が高く、創意工夫に富んだ撮影法が多く見られ、大変勉強になりました。

私は、肝類洞閉塞症候群の症例で入賞し、当院血液内科医師と共に発表して
まいりました。肝類洞閉塞症候群とは、白血病の治療における合併症の一つで、
移植前の前処置として抗がん剤や放射線照射によって肝臓内の類洞内皮細胞が
剥がれ、それらが類洞を塞いでしまうことで血流障害を引き起こす病態です。こ

れまで血液検査やエコー検査など診断基準が存在していますが、確定診断が難しく、重症の場合の致死率も高いため、早期診断や治療介入が求められています。今回の発表では、Aquilion ONE を用いた 4DCT により肝内の血流の流れを可視化し、Vitrea のアプリケーションを用いて血流量を定量化した内容を紹介しました。光栄なことに Aquilion ONE 部門で優秀賞をいただくことができました。また当院からは吉川氏が Precision 部門でテクニカル賞を受賞され、共に喜びを分かち合うことができました。この画論 ザ・ベストイメージは、診療放射線技師と医師が連携し、患者さんの治療のために最良の画像を撮影し、臨床に役立つという放射線医学の重要なコンセプトを体現していると感じます。

来年も 33 回目の画論 ザ・ベストイメージが開催予定となっているようですので興味のある方はぜひチャレンジしてみたいかがでしょうか？



札幌医大チーム